巻頭特集

戦後 80 年　平和を創り出す人に

更科幸一

2025 年、日本は戦後 80 年を迎え、自由学園では折々に平和を創り出すためにできることを考える行事を行いました。なぜこの企画をしたかといえば、ひじょうにシンプルに表すと「戦争をしないために」ということに尽きます。今、政治を中心に、日本社会が戦争へ向かおうとしていることは多くの人が感じていると思います。それぞれの集まりの開催時期を 8 月、9 月にしたのは、そのほうが日本人の意識が向きやすい、ということもありました。ですが、特に戦後 80 年を意識しているわけではなく、今大切にしたいこととして、考えました。

自由学園はキリスト教を土台とする学校として、闘うのではなく、平和を創ることを大切にしたい、という考えを持っています。創立者の一人である羽仁もと子は、国際的なネットワークをもつ婦人平和協会の、発足時（1921 年）からのメンバーでした。もと子の 1932 年からの世界各国への旅は、フランス・ニースでの世界新教育会議参加や各国での教育現場の視察など、学園長としての意味のほかに、平和運動組織の会員としての活動も含まれていました（『自由学園一〇〇年史』72 頁）。平和のために実践をする人を創立者とする自由学園は、今もその精神を受け継ぎ、小さなことからでも実行できる人を育てることを大切にしたいと考えています。（更科幸一）

戦没者追悼祈念礼拝

平良愛香

戦後 80 年戦没者追悼祈念礼拝は、沖縄出身の平良愛香牧師（日本基督教団川和教会牧師、農村伝道神学校校長）にお願いし、録画したものを自由学園の HP にて公開しました。平良牧師は平和の実践家として、ミャンマーの方たちと毎週対話をしたり、沖縄の集会に参加するなど、「平和を実現する人々」（マタイによる福音書 5 章 9 節）のうちのお一人です。（更科幸一）

讃美歌 420 番（自由学園合唱部による讃美）
聖書朗読　マタイによる福音書　5 章9〜10 節

ハイサイ グスーヨー　チューナラデワ　ワンネータイラアイカヤイビ（「皆さんこんにちは。私は平良愛香と申します。」）

皆さんこんにちは。平良愛香です。8 月 15 日はどのような日か、皆さんイメージできますでしょうか。よく終戦記念日と言われることが多いのですが、私は、終戦記念日という言葉をあえて避けています。なぜかというと、8 月 15 日に戦争が終わったわけではないからです。

8 月 15 日は天皇が「戦争に負けました」と宣言をした日ではありますが、実はそれ以降に死んでいる人もたくさんいますし、実際に終戦の調印が行われたのは 9 月になってからです。ですから私は、8 月 15 日は終戦記念日とは言わずに、敗戦記念日とか敗戦宣言日、と呼んでいます。

実は私が生まれ育った沖縄は、ご存知の方も多いかと思いますが、6 月 23 日に沖縄慰霊の日という特別な日があります。特に今年は戦後 80 年ということで、日本中から、あるいは海外からも沖縄に人が集まって、この 6 月 23 日を特別に覚えて追悼の日としました。なぜ 6 月 23 日かというと、沖縄戦の時に沖縄にいた日本軍の司令官、牛島満とい

う 32 軍司令官が、自決をした日だからです。牛島家の人に聞いてみると、司令官が亡くなったのは 22 日だったという説もあり、牛島家では 22 日を命日としているそうなのですが、一応慰霊の日では 23 日が組織的な戦闘が終わった日とされています。ただこの牛島満司令官は最後の一人まで死ねと命じて自分が死んでいったものですから、その後もずっと戦闘は続くのです。

そしてあまり知られていませんが、8 月 15 日を過ぎても沖縄では戦闘が続いています。それどころか 8 月 15 日を過ぎて日本兵に殺された沖縄住民も 10 人以上いたことがわかっています。ですから私は無批判に 8 月 15 日を戦争が終わった日とすることにとても抵抗があるのです。

ではいつ戦争が終わったのか。沖縄にいると「ああまだ戦争が終わっていないな」と感じます。

いまだに軍事基地によってたくさんの人が苦しみを負わされている。事故や事件が起きても、たいていの裁判は米軍のほうが有利になってしまう。かなり長い間、泣き寝入りを強いられている沖縄があります。

もう一つ皆さんに覚えていてほしいのは、沖縄にたくさん米軍基地があること。つまり、沖縄の人たちは被害者になっていると同時に、加害者にもなっているという事実です。僕が生まれた 1968 年は、ベトナム戦争の真っ最中でした。ベトナム戦争というと、アメリカとベトナムの戦争といえば間違いではないのですが、忘れられているのが、そのころ沖縄はアメリカの一部だったということです。沖縄もベトナム戦争に巻き込まれていたのです。

けれども、その間沖縄に爆弾が落ちたわけではありません。落とす側になったのです。毎朝沖縄から飛行機がベトナムへ飛んでいき、爆弾や薬剤、毒薬・枯葉剤を撒いて、夕方沖縄に帰ってくる。そして枯葉剤や爆弾、そして燃料を補給する。沖縄は戦争の加害者の拠点になっていったのです。

沖縄にたくさんの軍事基地があるということは、基地被害で苦しむだけではなく、加害者になる、ということでもある。こういう話をすると心の優しい人が「いや、沖縄は加害者になっているのではなく、加害者にさせられているだけで、やっぱり被害者なのでは」と言ってくれます。ああ優しいなと思います。けれども、この優しさのせいで、加害者であるということを薄めさせてはいけないと思うのです。

やはり、基地がある。基地を止められないでいる。戦争に加担する島になってしまっている、という事実は覆い隠すことができません。今、沖縄の辺野古というところで新しい基地建設が続いていますが、それを阻止しようとする人たちもたくさんいます。阻止行動をしたり抗議行動をしたりしています。毎日毎日陸や海の上で座り込みをしています。これは、これ以上基地被害を受けたくないから、ではありません。これ以上加害者になるわけにはいかない、という思いがあるからです。ある人がこんなことを言っていました。今まで基地被害で苦しんできた。辛いけれどなんとか我慢はしてきた。でも、加害者になるということは我慢するわけにはいかない。我慢してはいけない。だから、今基地建設を止めているのだ、と。

先ほど朗読していただいたマタイによる福音書には、「平和を実現する人々は幸いである」という言葉がありました。本当にその通りだと思うのですが、実はここには「平和を愛する人は幸い」とは書いてありません。「平和を祈り願う人は幸いである」とも書いていない。「平和を実現する人」という言葉があえて使われています。私たちがしなくてはいけないのは、平和を実現する人になるということ。そのように、改めて聖書を読んでいて思うのです。

おそらく平和を願わない人はいないでしょう。平和を愛さない人もいないでしょう。けれども、そのままでは私たちは戦争の被害者になってしまうだけではなく、加害者になってしまう、ということに気づかないといけない。何もしないでいるのは、中立、ではなくて加害の側に立ち続けるということです。そのことを 8 月 15 日は特に意識したいと思うのです。よその国の戦争に目を向けても、私たちは中立であることもできないし、傍観者でいることもできません。ミャンマー、ウクライナ、ガザなどの話を聞いたときに、私たちはもしかしたら加害者の側に立っているのかもしれない、と気づかされるのです。

政府がこうした事象にどのような関係性を持っているか。どの国がどういうことをしているのか。そして日本はその国に対してどういう支援をしてしまっているのか。それを支えているのは私たち日本に住む一人ひとりなのだと思ったときに、「そんな重箱の隅をつっつくようなことを言われても困る」と思うかもしれません。でも考えないでいると、気づかないうちに加害者の一人になっている。

私たちが平和を実現する者になるというのは、私たちに今何ができるのか、今何をしなければいけないかを、面倒くさいけれど考えて、調べて、わかったら行動するということ。行動というのは、戦争反対というデモに行くのもよいかも

しれませんが、それだけではない。こういうことを考えた、ということをぜひ周りの人と話してください。「面倒くさい人」と思われるかもしれない、「硬いね」と思われるかもしれない。いいじゃないですか。それくらい覚悟して平和を実現していく者になっていきたい。私も頑張ります。皆さんも一緒にやってみませんか。

お祈り

（2025 年7月 25 日）

※この礼拝は「戦後 80 年戦没者追悼礼拝～私達が平和をともに実現するために～」として、自由学園 HP にて公開された。礼拝後には谷川賢作氏のピアノ演奏の映像が収録されている。